

氏名	宮里 翔大 (ミヤザト ショウタ)
本籍	沖縄県
学位の種類	博士(学術)
学位の番号	博甲第103号
学位授与の日付	2022年3月18日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	学生からみた短期大学教育—在学生調査と卒業生調査の分析—

論文審査委員	(主査)	桜美林大学教授	小林 雅之
	(副査)	桜美林大学教授	田中 義郎
		桜美林大学教授	畑山 浩昭
		帝京大学教授	山村 豊

論文審査報告書

論文目次

序章 本研究の問題意識と目的.....	1
第1節 問題意識.....	1
第2節 短期大学を対象とした先行研究の検討.....	2
第3節 研究課題の設定.....	7
第4節 研究方法.....	8
第5節 本研究の構成.....	12
第1章 短期大学の発展と現状.....	14

第1節	短期大学の創設と発展	14
第2節	短期大学と他の高等教育機関との相違点	24
第3節	全国学生調査（試行版）と短期大学生調査との比較	29
第4節	本章のまとめと短期大学の展開と現状	33
第2章	学生からみた短期大学教育の現状と研究枠組みの設定	35
第1節	I-E-O モデル及び短期大学生調査の概要と研究枠組みの設定	35
第2節	進学動機関連設問の結果と整理	41
第3節	学修経験関連設問の結果と整理	43
第4節	学修成果・満足度関連設問の結果と整理	45
第5節	本章のまとめと研究枠組み	50
第3章	進学動機からみた短期大学教育の現状	52
第1節	進学動機関連設問における研究課題の設定	52
第2節	進学動機「専門学校回避」による影響	53
第3節	進学動機「4年制大学回避」による影響	57
第4節	本章のまとめと進学動機からみた短期大学	62
第4章	学修経験からみた短期大学教育の現状	64
第1節	学修経験関連設問における研究課題の設定	64
第2節	学修経験「授業ばなれ」による影響	65
第3節	学修経験「アクティブラーニング経験」による影響	70
第4節	本章のまとめと学修経験からみた短期大学	74
第5章	学修成果および満足度からみた短期大学教育の現状	76
第1節	学修成果および満足度関連設問における研究課題の設定	76
第2節	学修成果「知識・汎用的技能」への影響	77
第3節	総合満足度「短大での学び（学習）」への影響	82
第4節	「他者への推奨度」への影響	87
第5節	本章のまとめと学修成果および満足度からみた短期大学	91
第6章	学生からみた短期大学教育	
	—I-E-O モデルに基づいた「短期大学教育モデル」構築の試み—	93
第1節	本研究における分析枠組み	93
第2節	Inputs（既得情報）としての進学動機	94
第3節	Environment（環境）としての学修経験	96
第4節	Outputs（成果）としての学修経験と満足度	99
第5節	「短期大学教育モデル」の検討	102
第6節	本章のまとめと「短期大学教育モデル」	106

第7章 卒業生からみた短期大学教育.....	108
第1節 短期大学における卒業生調査と研究課題の設定.....	108
第2節 「経過年数」別の卒業生からの評価.....	111
第3節 短期大学生調査と短期大学卒業生調査の比較.....	114
第4節 本章のまとめと卒業生からみた短期大学教育.....	117
終章 本研究のまとめと今後の検討課題.....	119
第1節 本研究のまとめと学生からみた短期大学教育.....	119
第2節 今後の短期大学教育の展望.....	124
第3節 本研究の問題点と今後の検討課題.....	126
謝辞.....	128
引用文献.....	i

論文要旨

短期大学に関する研究は高等教育研究の中でも、先行研究が少ないのが現状である。本論文は、歴史・比較、2つの大規模調査と様々なアプローチによって、短期大学教育について、学生の視点から検討を加えている。まず、先行研究のレビューに続き、3つの課題を設定している。第1の課題は、「短期大学教育の特徴はどのようにして生まれたのか、そして他の高等教育機関とどのように異なるのか」、第2の課題は、「短期大学で学ぶ学生は短期大学教育をどのようにみているのか」、第3の課題は「短期大学で学んでいた卒業生は短期大学教育をどのようにみているのか」である。

第1の課題について、戦後の短期大学が暫定的な制度として発足した歴史的経緯をふまえ、専修学校専門課程（専門学校）や4年制大学との比較で、その性格や学校制度の中で曖昧なものとなっていることを明らかにした。さらに、4年制大学生を対象とした文部科学省の「全国学生調査」と短期大学基準協会の「短期大学生調査」を比較し、外国語能力などの自己評価は低いものの、4年制大学よりも授業における経験や獲得した能力の自己評価について肯定的な評価もみられた。これらから、短期大学は「4年制大学と他の短期高等教育機関と中間の性質」をもつ高等教育機関であると位置づけられることを示した。

第2の課題については、短期大学基準協会が実施している「短期大学生調査」と「卒業生調査」を用いて、学生の視点から見た短期大学教育の実態を解明した。このために、AstinのIEOモデルに準拠し、Inputs（既得情報）として進学動機を、Environments（環境）として学修経験を、Outputs/Outcomes（成果）として学修成果・満足度・他者への推奨度をそれぞれ設定した「短期大学教育モデル」を作成し、様々な多変量解析の手法を用いて検討した。その結果、進学動機については、専門学校への否定的な要素からなる「専門

学校回避」と特に経済面から4年制大学への進学を否定する要素からなる「4年制大学回避」の2つの要因による影響が強いことを明らかにし、4年制大学と比較して短期大学教育の特徴を理解している学生にとって、短期大学教育は効果的なものであることを示した。学修経験については、「授業ばなれ」とアクティブラーニングに関連する学修経験の要素からなる「アクティブラーニング経験」の2つの要因が学修成果・満足度・他者への推奨度に強く影響していることを示した。学修成果については、汎用的な知識や技能の習得度合いを示す「知識・汎用的技能」と短期大学での学び全体を評価する総合満足度「短期大学での学び」、短期大学を他者へ進めるかを示す「他者への推奨度」の3点に着目して検討し、進学動機や学修経験との関連が非常に強い傾向がみられることが明らかになった。さらに、これらの要因をすべて含んだ短期大学教育モデルの分析では、「進学動機」が「学修経験」と「学修成果」に影響を与えており、「学修経験」についても「学修成果」に影響を与えていることが明らかとなった。特に、進学動機が学修成果に与える直接効果より、学修経験が学修成果に与える効果の方が大きい。

第3の課題については、卒業生調査の分析結果から、卒業生は、知識能力の役立ちを実感し満足度も高く、日常生活や就職先等で活用しやすい能力ほど、短期大学における教育効果は持続しやすい傾向があることが明らかとなった。

これらの分析結果から、在学生や卒業生の短期大学で行われている教育に対する評価は高く、短期大学で学ぶ学生は短期大学における教育に現状では概ね満足していると考えられる。とくに、進学動機が学修経験や学修成果、満足度に影響を与えているが、それ以上に短期大学で実際に行っている授業や実習などの学修経験が学修成果や満足度に与える影響が大きいことが明らかとなったことは、学修経験や教育の有効性を示している。

最後に、本研究の問題点と今後の課題として、(1) パネル調査を用いた追跡調査を行う必要があること、(2) 在学生・卒業生を対象に質的なアプローチによる研究を実施する必要があること、(3) 短期大学と専門職大学・短期大学と比較を行うこと、(4) 諸外国の短期高等教育機関との比較を行うこと、が挙げられる。

論文審査要旨

本論文は、先行研究の少ない短期大学について、歴史・比較、2つの大規模調査（短期大学基準協会「短期大学生調査」と「卒業生調査」）の分析と多角的なアプローチにより、学生からの視点でその教育の実態を解明し、今後の短期大学のみならず短期高等教育のあり方について多大な示唆を与えるものとなっている。研究のオリジナリティやアプローチの多様性に加え、最も精緻な多変量解析の手法を駆使して短大教育の実態に迫るきわめて高水準の研究となっている。これらから、この分野における現在の研究水準に十分達していると評価される。

とりわけ、4年制大学生の「全国学生調査」と比較して学生の満足度が高いことやさらに大規模な在学生調査を Astin の IEO モデルに準拠した短期大学教育モデルを構築し、こ

れに基づき分析した結果、進学動機などが学修成果に直接間接に影響を与えているものの、学修経験の直接効果がより大きな影響を与えていることは、短期大学教育の有効性を示すものと言え、高等教育研究のみならず短期大学教育や高等教育政策に重要な示唆を与えるものであり、高く評価される。

口頭審査要旨

口頭審査は審査委員全員一致で合格とする。いずれの審査委員からも、既存研究が希薄な分野においてパイオニアとして今後の政策立案に寄与できる可能性の高い意義のある研究であると評価された。博士論文として十分水準に達していることを前提に、さらに短期大学教育モデルで検証していなかった点を確認することや、このモデルの活用や、直接評価データによる検証などの研究の将来について示唆があった。さらに、将来の短期大学教育についてのインプリケーションについて、より研究結果に基づく提言を期待するとの意見があった。